

安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）
第1回策定委員会

日 時：令和6年10月3日 午前10時から11時半まで

場 所：へきしんギャラクシープラザ 講座室

<委員出席者> 16名 ※欠席：原田正樹委員、浮森和美委員

【委員長】 野村 富雄（市民 スポーツ推進審議会委員）

【副委員長】 石川 清幸（社会教育委員）

【委員】 石原 隆義（社会教育委員）

原田 正樹（社会教育委員）

松井 恵子（社会教育委員）

鳥居 こずえ（社会教育委員）

西川 勝幸（社会教育委員）

伊藤 朝野（社会教育委員）

柳澤 義雄（社会教育委員）

神谷 有弘（社会教育委員）

浮森 和美（社会教育委員）

神谷 浩（社会教育委員）

桑田 智（市民 スポーツ推進審議会委員）

香村 恵介（市民 スポーツ推進審議会委員）

河方 真司（市民 公募市民）

小森 義史（市民 公募市民）

高山 智子（市民 公募市民）

大見 サキエ（市民 公募市民）

<事務局等出席者> 9名

石川 良一（教育長）

加藤 浩明（生涯学習部 部長）

大見 徹也（生涯学習部 生涯学習課 課長）

松元 淳一（生涯学習部 スポーツ課 課長）

神谷 高典（生涯学習部 生涯学習課 課長補佐）

内藤 拓自（生涯学習部 スポーツ課 課長補佐）

浅野 雄一郎（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 専門主査）

近藤 真弘（生涯学習部 スポーツ課 スポーツ振興係 専門主査）

<委託業者>

野口 鉄平(株式会社 創建 政策研究第2グループ 社会・公共政策チーム 副主任研究員)

山本 紗奈衣 (株式会社創建 政策研究第2グループ 社会・公共政策チーム 研究員)

<次第>

- 1 市民憲章唱和
- 2 委員委嘱辞令交付
- 3 委員紹介
- 4 委員長・副委員長選出
- 5 教育長諮問
- 6 教育長あいさつ
- 7 議 事
 - (1) 第4次安城市生涯学習推進計画及び第2次安城市スポーツ振興計画の進捗状況について
 - (2) 策定方針・体制及びスケジュールについて
 - (3) 市民アンケート調査について
- 8 その他

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）策定委員会名簿
- ・ 安城市生涯学習推進計画策定委員会規則
- ・ 諮問書
- ・ 第4次安城市生涯学習推進計画の進捗状況について
- ・ 第2次スポーツ振興計画の目標値の達成状況
- ・ 第2位スポーツ振興計画目標値及び実績値
- ・ 安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）の策定方針（案）
- ・ 市民向けアンケート調査票（案）
- ・ 中高生向けアンケート調査票（案）
- ・ 小学生向けアンケート調査票（案）
- ・ 団体向けアンケート調査票（案）

<議事概要>

1 市民憲章唱和

2 委員委嘱辞令交付

3 委員紹介

4 委員長・副委員長選出

・野村富雄委員長、石川清幸副委員長が選出された。

5 教育長諮問

6 教育長あいさつ

ただいま、皆様方に安城市生涯学習推進計画策定委員の委嘱、教育委員会からの諮問をさせていただきます。社会教育委員11名、スポーツ推進審議会委員3名、公募市民4名による委員会である。皆様方はそれぞれ生涯学習活動、スポーツ活動において多くの経験を積んでこられた方なので、それぞれのお立場からのご意見をいただきたいと思う。

今回の新たな計画は、生涯学習推進計画とスポーツ推進計画を統合させ、策定するものである。部活動の地域移行やコミュニティスクール、地域学校協働活動など、生涯学習の分野とスポーツの分野が相互に連携する必要があるため、指針を作る必要がある。

昨年6月に国で閣議決定された第4期教育振興計画では、2040年以降の社会を見据えたコンセプトとして2点掲げている。1点目が少子高齢化、人口減少が進むこれからの時代に、自ら持続可能な社会の作り手となっていける人材を育てる。2点目がウェルビーイングの向上で、誰にとっても、身体的・精神的・社会的に良い状態を持続させていくこと。それらのために、誰もが自分を豊かにできて、人ともつながり、協働していけるような人材を作っていこうということなので、それを踏まえた生涯学習推進計画を策定していきたいと考えている。

コロナ禍を経て、見直すべきゴールや具体的な事業等の検討が必要になってくる。来年度末まで長丁場になるが、これからの時代にふさわしい計画の策定に向けて、皆様から忌憚のないご意見をいただけたらと思う。

7 議事

(1) 第4次安城市生涯学習推進計画及び第2次安城市スポーツ振興計画の進捗状況について

- ・事務局より、第4次安城市生涯学習推進計画及び第2次安城市スポーツ振興計画の進捗状況についての説明を行った。

(柳澤委員)

- ・6ページの進捗状況について、1の満足度については評価できると思う。
- ・3の新たに活動を始めた自主グループ数については、教室や講座の延長線でできた新しいグループもあるが、消滅するグループもたくさんあるので、増減を指標に入れた方が良いのではないか。
- ・4の市民自らが企画・運営する講座は、難しいと思う。内容を理解した指導的な人材がいないと難しいので、そこそこの数字だと思う。
- ・2の受講者数は、7、8ページを見ると、横ばいか若干増えている講座もあるが、講座数や回数が増えた割に参加者数が増えていないのは、1回あたりの講座の参加者数が少ないことが原因ではないか。内容の充実やPRの拡充をお願いしたい。
- ・全体としては一定の成果を出していると感じた。
- ・11ページの、成人の週1回以上のスポーツ実施率は十分評価できる、個別目標も、目標よりは少ないが、着実に増えており、評価できる。ただ、12ページの個人目標の目標値は毎年増やしているが、人口は頭打ちなので、実績を見て、努力すればかなう数字を取り入れても良いと思う。

(香村委員)

- ・6ページの、新たに活動を始めた自主グループ数について、継続率の指標があると、その後の支援の検討につながると思う。
- ・生涯学習に対する満足度は、生涯学習を行っている人を母数としているのか、行っていない人も含めた全体なのか。

(事務局 生涯学習課)

- ・市民全体である。

(大見委員)

- ・平均化した満足度を出していると思うが、それぞれの団体の満足度を出して、満足度と継続年数などを比較すると良いと思う。
- ・グループ数を増やすより、質が大事なので、学習の中身や、求めているものに対する内容なのかを評価した方が良い。
- ・12ページの目標値は、どのように作られたのか教えてほしい。高齢者が増えている中で、

スポーツをやれる限界の年齢があると思う。どのくらいの年齢の参加人数を増やす目標なのかが分からない。

(事務局 生涯学習課)

- ・自主グループ数についての全体数は把握しているので、次回出したいと思う。自主グループは、学びたいと思った人たち同士が自ら行うものなので、なくなるのは致し方ない。新しいやりがいを見つけてもらえるよう、新たな講座等を考えている。
- ・満足度は全市民向けのアンケートになっており、各グループの満足度は把握できないので、数字が出てこない。
- ・目標値は、それまでの経過の数字を参考に作っているものと、計画策定する際のアンケート結果を参考に作っているものとある。生涯学習を行っている方の数字があるので、今からやりたい方との差の部分を、現在の受講者数にかざして、目標値としている。

(事務局 スポーツ課)

- ・個別目標の①市主要スポーツ事業参加者数は、シティマラソンは大人から子どもまで対象としており、ラジオ体操も幅広い層の方を対象にしているため、目標値は少しでも多くの方に参加していただくために、段階的に増えていく形で設定している。令和元年度のオリンピックを契機に増やしていこう、と右肩上がりで作成をしているが、コロナがあったため、現状は乖離がある。②の施設利用者数も、施設は増えていない中、右肩上がりになっているので、いただいたご意見を踏まえて、今後検討していきたい。

(野村委員長)

- ・時間の都合もあるので、議題(1)についてはここで閉じたいと思う。議題(1)第4次安城市生涯学習推進計画及び第2次安城市スポーツ振興計画の進捗状況について、了承される方は拍手をお願いしたい

～委員拍手～

(2) 策定方針・体制及びスケジュールについて

- ・事務局より策定方針・体制及びスケジュールについて説明を行った。

(小森委員)

- ・今回、従来の策定の考え方と変わった印象を持った。国の方針で統合されたことはあると思うが、総合計画と教育大綱が策定されているので、その枠の中で詳細を策定していくのかと思う。コンサル(策定業者)の変更で、従来の作業部会と位置づけや内容が変わったりするのか。

(事務局 生涯学習課)

- ・作業部会については、前回と同じワークショップを予定している。生涯学習とスポーツとあるので、まず全体の生涯学習とスポーツについて現状を把握する会を設け、4回あるので、もう1回生涯学習を専門にやり、もう1回はスポーツ、最後に両方をやるイメージである。

(神谷浩委員)

- ・部活動の地域移行、コミュニティスクールの問題を、どのように取り込んでいこうと考えているのか。生涯学習だけでなく、学校との連携が課題になると思う。具体的な答えは出ないと思うが、策定方針に盛り込んだ方が良く思う。

(事務局 生涯学習課)

- ・おっしゃられた通り、具体的な施策をこの計画に当てはめるのは難しいと考えている。部活動の地域移行やコミュニティスクールの件は、多くの地域の方々に協力していただく必要があるので、抽象的にはなると思うが、計画に取り込んで行きたい。計画の議論の中で、具体的な施策を入れた方が良くということであれば、そちらの方向で検討していきたいので、皆様から様々なご意見をいただけたらと思う。

(野村委員長)

- ・その他、特にご意見もないようなので、議題(2)策定方針・体制及びスケジュールについて、了承される方は拍手をお願いしたい。

～委員拍手～

(3) 市民アンケート調査について

- ・事務局より、市民アンケート調査について説明を行った。

(小森委員)

- ・アンケート実施前に委員会にかけてもらえるのは、内容を確認できるのでありがたい。小学生や団体など、幅広く取るのも非常にいいことだと思う。
- ・分かるようであれば、前回の回収率や今回の見込みを教えて欲しい。
- ・団体アンケートはとても良いと思うので、スポセンなどに置いて、どこの団体でも回答できるようにしてくれると、ありがたい。
- ・LINEのアンケートは市民にとって回答しやすいので、併用していただくと良いと思う。

(事務局 スポーツ課)

- ・前回の回収率は生涯学習が29.3%。スポーツが42.7%で、概ね平均35%である。

4000人抽出なので1500名程度を見込んでいる。

- ・11月から12月に実施するので、今回の意見を参考に、よりよい方法を考えていきたい。

(香村委員)

- ・18歳以上のアンケートの調査時期が10月下旬から11月ということだが、前回令和3年の調査は11月から12月だった。時期がずれると内容にも影響すると思うので、揃えられるなら揃えた方が良いのではないかと思う。
- ・問19、スポーツ実施日数を聞く質問で、実施するスポーツを聞いてから日数を聞いているが、前回とは聞き方が異なるので、これは問題だと思う。国や県が行っている調査に似せているのだと思うが、県の調査では37項目、国では60項目から選ぶところを、26項目で聞いているので、ここは前回と同じにして、安城市と比較するのが良いのではないかと思う。その際スポーツについての定義の説明もなくして、前回と同じ比較をした方が良い。このままだと前回とも、国や県とも比較出来ない。
- ・問23「みる」スポーツに、シーホース三河を、入れなくてもいいのか。
- ・個人の属性を聞くところで、世帯年収を聞いてはどうか。回答率は下がるかも知れないが、スポーツの実施は家庭の経済状況に、かなり影響を受けるといわれている。低所得世帯に対し、市として無料のプログラムを計画するとか、もっと色々な人が参加出来ることを検討していくのに役立つと思う。最初に入れるとその後の設問に答えない人がいるかも知れないので、最後に入れたら良いと思う。
- ・子どもの調査で、小5と中2のスポーツに関しては、体力・運動能力、運動習慣等調査を毎年国が行っているので、安城市も教育委員会がデータを持っていると思う。先程のアンケートで聞けない項目はほぼ網羅していると思うので、それを活用してはどうかと思う。
- ・中高生への設問に、部活動の地域移行に関する内容を、もっと入れるべきだと思う。
- ・小学生用は1年生から6年生を対象としていると思うので、漢字にはルビを振った方が良く、難しい言葉についても、見直した方が良い。
- ・回収率を上げる手法としてリマインドがあるが、今回は回答してこなかった方に対して、リマインドする予定はあるか。

(事務局 スポーツ課)

- ・実施時期については、結果分析の時間をより多くいただきたいこと等もあり、今のスケジュールで行いたいと考えている。
- ・問19について、国や県はスポーツ実施率の目標を70%で掲げている。先程の資料で、安城市のスポーツ実施率も非常に上がっていたと思うが、スポーツの定義が幅広くなって、スポーツが何なのかを示した結果、すごく上がっている。国や県と項目は一致しないのだが、調査項目の聞き方は合わせている。今回のアンケートを期に、国や県とも比較出来るように、この方法でやっていきたいと考えている。
- ・問23について、現在、ホームチームサポーター事業として、デンソーさんのソフトボー

ルと、アイシンさんのバスケットボール、ニッセイさんの軟式野球をやっている。その認知度が、重点施策で取り組んだ結果がどうなったかを見たいので、今回シーホースは入れずに実施したいと考えている。

- ・部活動の地域移行については、昨年度、市内の中学生1～3年生向けにアンケートを行っている。中高生のうち高校生は外れるので、ここに入れるよりはそのアンケート結果を活用して、次の計画に反映したいと考えている。
- ・世帯収入を入れることも考えたのだが、かなりデリケートな問題で、家庭の中でも知っている、知らない、というもある。国には確かに入っているのだが、年収を把握して、それをどれくらい施策に展開できるのかも、なかなか見え辛いので、回収率を高めるために、今回は入れていない。

(事務局 スポーツ課)

小学校の用語については今後検討させていただきたい。

(香村委員)

- ・項目は変わらないということか。スポーツのところは結構重要な議論だと思っている。国や県と統一させるなら、全く同じ項目にしないと比較できない。少し文言を変えるだけで実施率も急激に上がるのだから、前回の安城市のデータと比較できるようにしておいた方が良いと思う。

(大見委員)

- ・確かにアンケートは同じ項目にした方が良いのだが、定義を知るか知らないかでは市民の意識も違ってくると思うので、定義は入れた方が良いと思う。
- ・小学生用のアンケートはどうやるのか。先生が読み上げるのか、読み上げないならルビをふって、内容の説明が必要だと思う。低学年・中学年・高学年で、表現を変える必要がある。
- ・回収率としてはそれくらいなら妥当だと思う。
- ・アンケートを取るときに、子どもの人権を配慮する必要がある。前書きに一言入れた方が良い。大人も知らないので、アンケートに答えなくても不利益を得ないことを、明言しておくべきである。

(事務局 スポーツ課)

- ・小学生のアンケートで補足だが、今年度ホームチームのスポーツ選手が、「夢とは何か」という講話を6小学校と中学校で実施する。そのときに合わせてこのアンケートも行うことを検討しており、4年生から6年生向けのアンケートとなっている。360人というのは増減する可能性がある。

(委託業者)

- ・先程、小学5年生と中学2年生は国の体力・運動能力、運動習慣等調査があるので、今回の調査は不要ではないかというご意見があったが、アンケートを一括して行うことで、クロス集計が出来るというメリットがある。他の調査だと、他の調査の中でしか、属性と他の項目の比較が出来ない。今回のアンケートの中では、特にウェルビーイングという日常生活が充実しているかというところと、他の項目をクロス集計したいと思った場合、このアンケートの中で完結出来るので、小5と中2に関しても、今回のアンケートで実証していければと考えている。
- ・リマインドについては、他の自治体では督促状を送る場合もあるが、今回安城市はお礼として、ボールペンを全員に同封する形で回収率の向上を狙っている。

(香村委員)

- ・クロス集計が出来ることは分かるが、設問全部を無くすのではなく、重複するような質問は実施時期が違うことはあるが、もう少し省略出来るかもしれないと思った。
- ・ボールペンを同封するよりも、同じお金ならハガキを1枚送った方が、回収率は上がると思う。

(野村委員長)

- ・貴重な意見をありがとうございました。時間の都合もあるので、そろそろ閉めたいと思う。市民アンケート調査について了承される方は拍手をお願いしたい。

～委員拍手～

(野村委員長)

- ・本日の議題は全て終了した。ご協力ありがとうございました。

8 その他

- ・生涯学習部長よりあいさつ
- ・次回の策定委員会は令和7年2月14日(金)10時から開催予定。案内は改めて送付させていただきます。